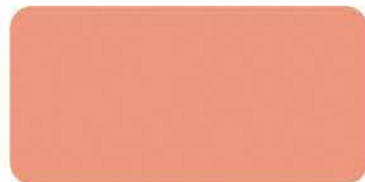


とおざか 地域づくり 計画書

100年先の人づくり



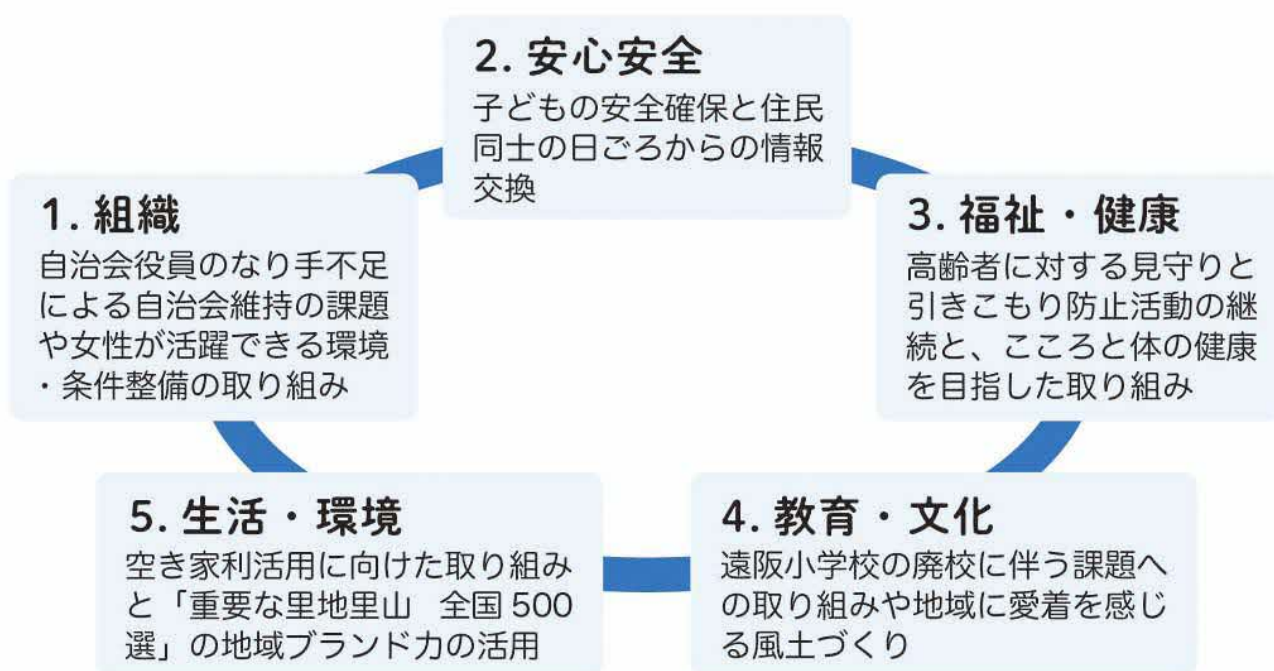
1. はじめに

地域づくり計画は、丹波市自治基本条例第12条第5項において、「自治協議会は、自らが取り組む活動方針、内容等を定めた地域づくり計画の策定に努めるものとします」と規定されています。これに基づき遠阪自治協議会では、平成28年3月に令和8年3月までの10年間の「地域づくり計画（以下、平成28年度策定計画）」が策定されました。

平成28年度策定計画時は、少子高齢化が進行し、翌年度に遠阪小学校の廃校を控える中で、廃校後の地域コミュニティの在り方が大きな課題でありました。

一方では、セツブンソウやヒメボタル、オオサンショウウオなど貴重な植物や生き物を育む遠阪の自然環境が、環境省の「重要な里地里山 全国500選」に選ばれ、地域づくりの資源として弾みをつけた時期でもありました。

平成28年度計画策定時の課題としては、次の5つの視点が掲げられました。



これらの課題を解決するために「人権を尊重される地域」・「安心・安全に暮らせる地域」・「健康寿命日本一を目指す地域」・「夢・希望・愛着を持てる地域」の4つを基本計画の柱とする地域づくり事業が行われてきました。

しかしながら、10年前と比較すると、現在の人口（令和7年8月末住基人口）は841人（平成28年度比で19.3%減少）、高齢化率は44.1%（同9.1%増加）と少子高齢化は急速に進行しています。この影響はさらに深刻化し、新たな課題も生じています。

一方で丹波市の施策においては、廃校となった小学校利活用への財政支援の見直しや、過疎対策のための行政支援など、積極的に地域づくりに取り組む地域に対する支援策が実施されています。

遠阪自治協議会はこの流れを追い風として、これからも住み続けたいと思える遠阪地域を目指して、今後10年間の新たな「地域づくり計画」を策定するものです。

2. 現状と課題

現状

平成 28 年度計画の策定から 10 年を経過し、遠阪地区を取り巻く状況には、次のような変化がありました。

1) 旧遠阪小学校利活用の停滞

平成 29 年 3 月に遠阪小学校が閉校となり、144 年の歴史に幕を下ろしました。その後の利活用については、令和 2 年および令和 4 年に、それぞれ異なる事業者から 2 度にわたり利活用の提案がありましたが、いずれも事業者の辞退により実現には至りませんでした。

2) 遠阪地区全自治会を対象とした調査

令和 3 年度には、兵庫県による調査事業を活用した丹波市による「遠阪地区小規模集落元気度調査」が実施されました。その結果をもとに、今後取り組むべき課題がより明確となりました。

3) 重点支援事業（ミライン）による将来像の検討・とりまとめ

令和 4 年度には、丹波市の重点支援事業として「地域の未来デザインプロジェクト」（通称「ミライン」）に取り組みました。募集に呼応した住民有志が「遠阪ミライン会議」を構成し、丹波市市民活動支援センターの支援を受けながら、遠阪地区の 10 年後のありたい姿や、今後取り組むべき方向について、住民や関係者との意見交換・話し合いを重ねました。

その中で、「今後 10 年の遠阪地域での暮らしの姿・生活の姿がどのようになればよいのか」「そのために遠阪小学校がどのような場所として、どのように利活用されればよいのか」といった点について、遠阪地区の住民延べ 165 人から意見を聞き取りました。これらの意見をもとに、今後の遠阪地域のありたい姿を 8 つのテーマに整理し、旧遠阪小学校については、地元での利活用を目指した検討を進めているところです。

4) 榎峠トンネルの着工・完成予定

令和 6 年 5 月には、「国道 429 号榎峠バイパスの早期完成を！」をスローガンに平成 2 年より改修促進運動に取り組んできた「榎峠トンネル（仮称）」の工事が着工され、令和 8 年度末の供用開始を目指して進められています。

トンネルの完成により、遠阪地区と福知山市間の所要時間が約 15 分短縮される見込みであり、交流人口の拡大による人口減少への歯止めや経済波及効果など、地域活性化への期待が寄せられています。

5) 青垣地域の過疎地域指定をきっかけとした「青ネット」の組織化

令和 3 年度には、青垣地域が過疎地域に指定され、丹波市では、「過疎地域持続的発展計画」に基づく事業が展開されています。しかし、青垣地域の抱える課題解決には至っていないことから、令和 7 年度には、丹波市と青垣地域の抱える課題を共有し、解決に向けて取り組むための組織として、青垣地域活性化ネットワーク協議会（通称「青ネット」）が組織されました。

このように、現状を放置すればさらなる悪化が懸念される中で、少しでも住みよい地域にしていこうとする住民の意識が芽生え、新たな地域づくりの取り組みが生まれつつあります。

課題

令和3年度に実施した「遠阪地区小規模集落元気度調査（先述）」の結果からみて、下記の点が課題として考えられます。

1) 個人や家族で支えられる範囲の縮小

高齢者は一世代（夫婦）または単身の世帯が多く、地域での活動や役を担うことが難しい状況にあります。その一方で、近所や地域の支えが今後ますます必要になることも考えられます。また、調査項目「困っていること3つ」への回答からは、人間関係の希薄さや、家族が戻らない・引き継げないといった将来への不安もうかがえます。

家族のUターンの可能性は少なく、近居している家族も多くありません。今後はUターンによる人口回復は見込みにくく、近くの親戚や家族に頼ることができる範囲も限られてくると考えます。

2) 若い世代ほど、住み続ける意向の弱さ

居住意向を聞いた調査項目で「遠阪地区に住み続ける」と回答した人の割合は全体としては高いものの、60代以下では70代以上に比べてその割合が低く、80歳を超えると、身体的な負担や生活維持の面から住み続けることが難しいと感じている可能性が高いと推察されます。

3) 移動手段の確保が不可欠

現在は自家用車による移動が主となっていますが、高齢者の多くが今後の移動に不安を抱えています。今後、運転出来なくなった場合には、買い物や通院など、生活に不可欠な移動手段を喪失し、集落での生活の継続が困難になる可能性があります。また、調査項目「困っていること3つ」の自由記述の内容からも、移動手段に対する不安がうかがえます。

4) 人口減少と高齢化の進展に合わせた自治会や集落の役の見直しが急務

調査項目「困っていること3つ」の自由記述の内容からは、高齢化に伴い集落や自治会等の役の維持に困っている状況がうかがえます。調査項目「集落存続についての自由記述」からは、自治会等の見直しや縮小を前提とした対応の必要性が多く指摘されています。

5) 農地・山林等、集落環境維持の困難さ

70歳以上では自作の継続が難しくなっており、今後さらなる高齢化により、自作でなくなる可能性が高くなっています。また、借り受ける住民の減少も予測されるため、耕作放棄地がさらに増えることが懸念されます。

山林保有者の半分弱は管理を放棄するか、諦めている状態にあります。年代別でも70代以上では管理が出来ていない状況にあり、今後のさらなる高齢化を踏まえると、山林を個人で管理していくことは相当難しいと考えられます。

調査項目「困っていること3つ」の自由記述の内容からも、農地や山林、空き家に関する悩みが見られます。

3. 基本計画

令和3年度に実施した「遠阪地区小規模集落元気度調査」の結果や、令和4年度に実施した遠阪地区の住民延べ165人への意見聴取結果、さらに「遠阪ミライン会議」での検討を踏まえて、地域づくりの目標を次の8つの視点で整理しました。

目標1

健康な地域

①これからの遠阪の姿

子どもから高齢の方まで、健康に気をつけ、いつまでも元気に暮らせる。そのために医療とのつながりや高齢者の方にも優しい事業があり、気軽に健康に過ごすための取り組みができる地域に。

②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

いつまでも元気に動ける体と、年齢に関係なく心も健康に保てる「心身ともに健康でいられる地域」を目指します。



キーワード

健康を守る 心も健康
元気に動ける健康な体

具体的なアイデア

■出張ヨガ教室 ■散歩MAP ■話せる機会づくり
■スポーツ・ニューススポーツ体験 ■いきいき百歳体操
■虫・魚とり ■ウォーキング大会 ■囲碁ボール

目標2

関わり・支え合える地域

①これからの遠阪の姿

みんなで仲良く暮らす。そのために地域内の交流が活発で、同世代や多世代でも集る機会や場があり、みんなで支え合える、あたたかい緩やかな繋がりがある地域に。

②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

1人暮らしでも、「周りとのつながりがあり、安心・豊かに暮らせる地域」を目指します。そのため、地域に住む住民だけでなく移住者も含め、普段から住民同士がふれあい、支え合う地域のつながりを大切にします。また、遠阪の出身者など、遠阪地域に関心を持ってもらえる関係人口の増加にも取り組みます。



キーワード

高齢者の見守り・支え合い
一人暮らしの人との関わり 移住者との関わり
子ども・子育ての支え合い 住民同士の関わり
地域住民と自治会の関わり 住民同士の支え合い
出身者 / 関係人口との関わり

具体的なアイデア

■支え合いの検討 ■外出支援
■モーニング ■いきいきサロン
■集いの場・趣味で集まる場
■囲碁・オセロ・ゲームの体験
■文化祭 ■運動会
■あいさつ運動 ■廃校利活用
■近所の人と遊ぶ・交流する機会



目標3

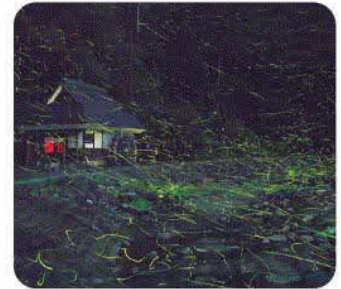
自然を守り・活かし・共生する地域

①これからの遠阪の姿

自然環境や文化を守り、共生し、恩恵を受けながら楽しく暮らす。そのために自然環境が維持管理され、将来も自然が多く豊かな地域に。

②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

貴重な生き物や植物を育む遠阪の自然環境を守り、「人と自然が共生する遠阪」を目指します。そのため、人が暮らす場所と自然に帰す場所を明確にし、獣害の不安のない暮らしを目指します。また、草刈り作業など農作業の負担を軽減するスマート農業の導入により、農業に関わる人や応援する人を増やし、農業を守ります。



キーワード

農業を守る 獣害に不安のない地域
野生動物を守る 草刈りの効率化

具体的なアイデア

■自然の保全・環境整備・PR
■草刈り隊・草刈り大会 ■ホタル観察会
■里山づくり・自然遊び ■節分草の公開
■ラジコン式草刈機活用

目標4

どの世代も楽しみがある地域

①これからの遠阪の姿

子どもから大人まで、男性も女性も元気に楽しく暮らす。そのための子どもの遊び場や活動の場があり、趣味や娯楽など心の豊かさが育まれる場やつながりがある地域に。

②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

遠阪の環境（雪・農業・山など）を活かし、自然と触れ合える楽しみや遊び、昔ながらの農家の仕事や暮らしを体験できる「自然・文化を活かした楽しみのある地域」を目指します。また、地域内外を問わず、若者が遠阪で起業やビジネスに挑戦できる環境を整え、自治会や住民もそれを応援する「若者が挑戦できる、応援する地域」を目指します。



キーワード

自然・文化を生かした楽しみのある地域
挑戦できる / 応援する地域

具体的なアイデア

■サマースクール ■子どもキャンプ
■若者応援 ■文化教室 ■情報発信
■声かけ・やりたい事とマッチング
■食事会 ■持ち寄り〇〇会

移動の不安がない地域

①これからの遠阪の姿

買い物や通院に不便がなく、快適に暮らす。そのために車がなくても自由に移動ができる交通手段や助け合いがあり、既存移動サービスの活用や新しい移動手段の取り入れなど交通インフラが整備・発展している地域に。



②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

いつでも、どこにでも行ける移動手段の確保は難しいため、移動ニーズを的確に把握し、本当に必要な移動希望に応えられる手段を検討します。さらに、デマンド型乗合タクシーを効果的に活用し、限られた範囲の移動だけでも安心して暮らせる地域を目指します。また、子どもから高齢者、外国人労働者まで、誰もが安心できる移動環境の整備を進めます。一方で、移動を伴わなくても目的を達成できる方法や、スマホと連携した健康診断、病院・薬局とのデータ共有など、医療や健康を支える新しい仕組みの検討も進めます。

キーワード

- 行きたい場所に行ける
- 医療や健康を支える新しい方法
- 使いたい時に使える移動サービス
- 子どもから高齢者、外国人労働者まで安心できる移動環境
- 移動せずに（小さな範囲の移動で）目的をかなえる工夫

具体的なアイデア

- 企業との連携・協力
- デマンド型乗合タクシーの活用・夜間便の試行
- 乗合いで買い物にいく
- 通学バスの車両活用

安心・安全な地域

①これからの遠阪の姿

平和で安心安全に暮らす。そのためにみんなでお互いに見守りができ、空き家や空き地の活用や管理が適切にされ、処分や移住者にも不安がなく、また、自然災害や雪害に対応でき、身近に避難できる場所や備えのある地域に。



②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

空き家の適正管理への啓発に取り組み、所有者とのつながりを持つことで実態把握を行い、危険な空き家の発生を防ぎ、流通を促進する地域を目指します。急峻な山々を背後に抱え危険箇所が多い青垣では、避難先（公民館）の安全確保のための対策を検討し、危険箇所の把握・改善につなげる地域を目指します。笑顔で挨拶を交わすことで、住民のつながりと付き合いを深め、世代を超えて子育てや生活を支え合える地域を目指します。移住者にとって、遠阪地域は人柄が良く、穏やかに住みやすいと感じられる地域の良さを残し、移住者や新住民がなじみやすい地域を目指します。

キーワード

- 危険な空き家の発生を防ぎ、流通を促進する地域
- 世代を超えて支え合える地域
- 移住者や新住民がなじみやすい地域
- 子育てや生活を支え合える地域
- 危険箇所を把握し、改善につなげる地域

具体的なアイデア

- 防犯パトロール
- 避難訓練
- 農業・子育て・防犯セミナー
- 空き家片付け・カルテ作成・流通
- 顔見知りになれる機会
- 身近な人との関係づくり
- 非常時の想定・備蓄・対策検討

ICT を活用した便利な地域

①これからの遠阪の姿

不便なく暮らす。そのためにインターネットなどの情報通信技術を活用し便利な生活ができる地域に。

②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

ICT について気軽に相談できる人や窓口、セミナーなど学び・試せる場を整備し、ICT を無理なく使い分けられる地域を目指します。高齢者が徘徊や迷子になっても居場所がわかるよう、高齢者が安心できる ICT 環境の整備を目指します。ICT を活用した持続可能な農業や、ドローンの多用途活用が進む地域を目指します。



キーワード

ICT を無理なく使い分けられる

ICT を学び・試せる場がある

ICT で農業を持続可能にする

高齢者が安心できる ICT 環境の整備

ドローンを多用途に活用できる

具体的なアイデア

- AI を活用した会議記録作成 ■ スマホ・アプリ・ICT 講座 ■ 自動運転 ■ SNS 活用
- LINE 等での情報1本化 ■ オンライン診療 ■ 他地域との連携

自治会等の負担感が少なく、 誰もが自治会・地域に関わることができる地域

①これからの遠阪の姿

地域や自治会の活動や役に負担感なく暮らす。そのために地域や自治会の活動や役の整理や見直しが進み、持続可能でみんなが（特に若者が）参加しやすい仕組みや個人の時間も尊重できる工夫ができ、世代交代に不安のない地域に。また、地域全体や自治会同士で連携が取れ、地域や自治会の活動にみんなが主体的に緩やかに参加でき、課題解決や新しいことに挑戦しやすいままとりのある地域に。



②目標を実現するための内容（取り組みの方向性）

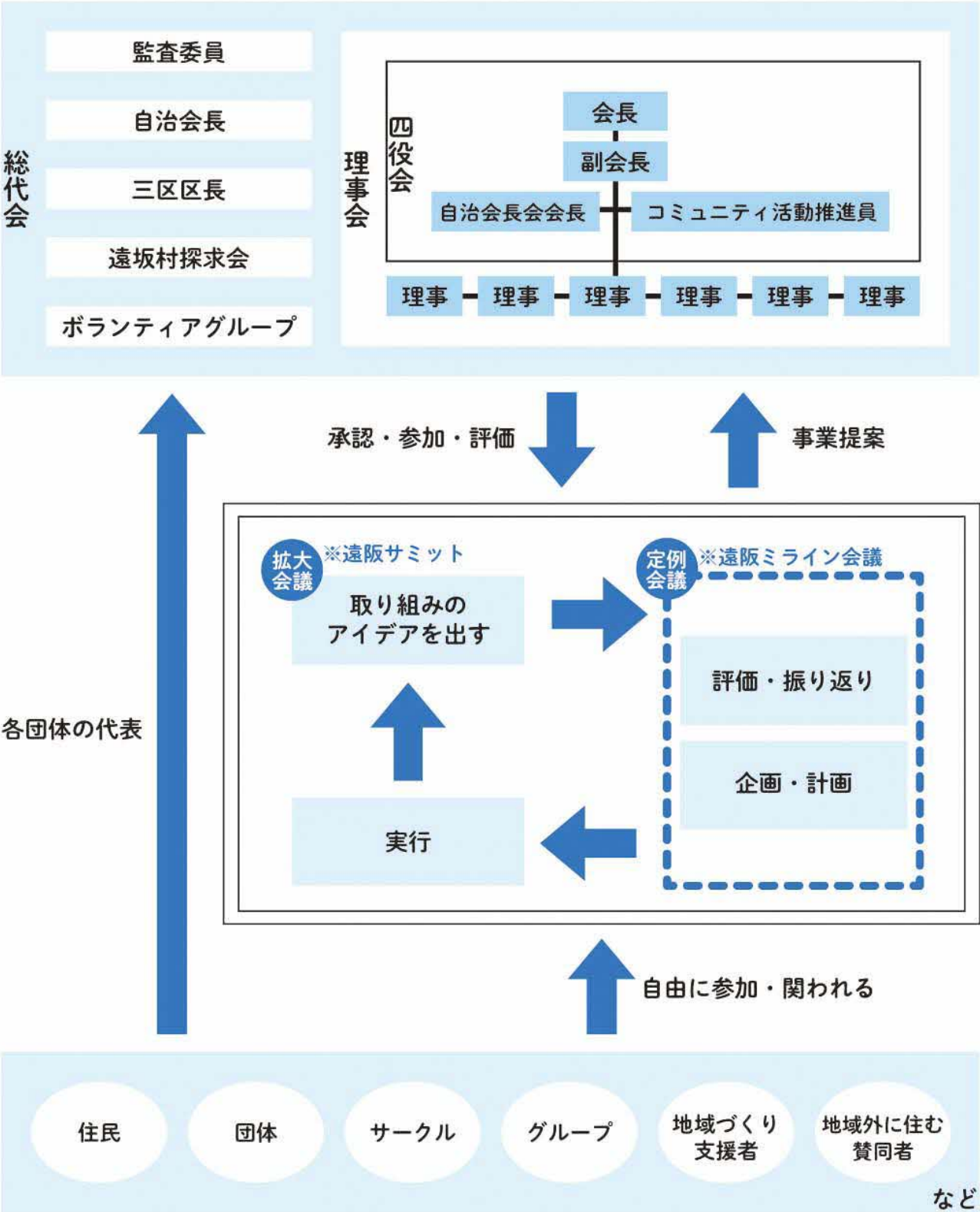
従来の戸主中心の運営から、女性や多様な住民が参画できる自治会を目指します。そのため、誰もが関われる柔軟な仕組みを考え、やりたいことを形にできる地域や、役員中心でなく若い世代のグループも関われる自治会を目指します。自治会、連合区、自治協議会の重要な役割を確認し、何を残すか、何を減らすかを検討することで、自治会の役の見直しや合併、連携を進めます。また、ふれあいやつながりづくりを重視し、本当に必要なことを残す自治会運営の検討も行います。

具体的なアイデア

- 自治会運営の検討・見直し ■ 遠阪地区全体・合同〇〇開催 ■ 働きながら関われる仕組み
- 自治会活動・内容・目的の見える化 ■ 若者・女性の参加 ■ 将来について話し合う会

4. 実施体制

今後の自治協議会運営では、地域づくりの目標を達成するために、様々な考え方を持つメンバーが参画し、知恵を出し合って課題を解決していくことが必要です。そのため、ミライン会議を中心に新しい組織体制を構築し、自治協議会の運営や活動に多くの方が参加しやすい体制に見直していきます。具体的な体制は、下記のとおりです。



自治会の役割

- 自治会内を活動範囲とし、自治会の住民を対象とする事業を実施

総会、役員会、草刈り等清掃活動、敬老会、公民館活動、農会、福祉、保健衛生、集金、組の活動、神事、財産管理、防災

- 自治会内の課題解決にむけた取り組み

連合区の役割

- 大字の区域内を活動範囲とし、連合区内住民を対象とする事業を実施

草刈り、夏祭り、財産管理、共聴テレビ

- 連合区内の課題解決にむけた取り組み

自治協議会の役割

- 小学校区内を活動範囲とし、校区内住民を対象とした事業を実施

生活安全、地域づくり、健康づくり、ミライン会議、青少年健全育成、棉ばたけ管理、広報、遠阪小学校管理、自治会長との連携

- 地域内共通の課題解決にむけた取り組み
- 行政や地域内の団体との連携
- 自治会のとりまとめ役

5. 地域拠点・連携

1) やまびこセンター

自治協議会の事務所を設置し、地域の活動の拠点として、やまびこセンターの活用を進めます。自治会や各種団体と連携しながら、遠阪地区の活性化にむけた取り組みを行います。

2) 旧遠阪小学校

現在は利活用の検討段階であり、令和8年度から具体的に取り組む予定です。基本的には、地域と連携して遠阪地域が抱える課題の解決に取り組む企業を誘致し、その活動を支援する拠点施設として利活用しすることを目的としています。

利活用にあたっては、自治協議会と連携しながら、地域の課題解決に取り組めます。

3) 青垣地域活性化ネットワーク協議会（通称「青ネット」）

青ネットは、青垣地域が共通して抱える課題の解決に取り組む推進母体として、令和7年4月に設立された組織で事務所は現在、現在遠阪自治協議会に置かれています。

青垣地域の課題は、丹波市内の他地域でもいずれ抱えるであろう課題であり、青ネットで取り組む内容は、丹波市のモデルケースとなると考えられます。

自治協議会も組織の構成メンバーとして、青ネットの活動と連携し、地域課題の解決に取り組んでいきます。

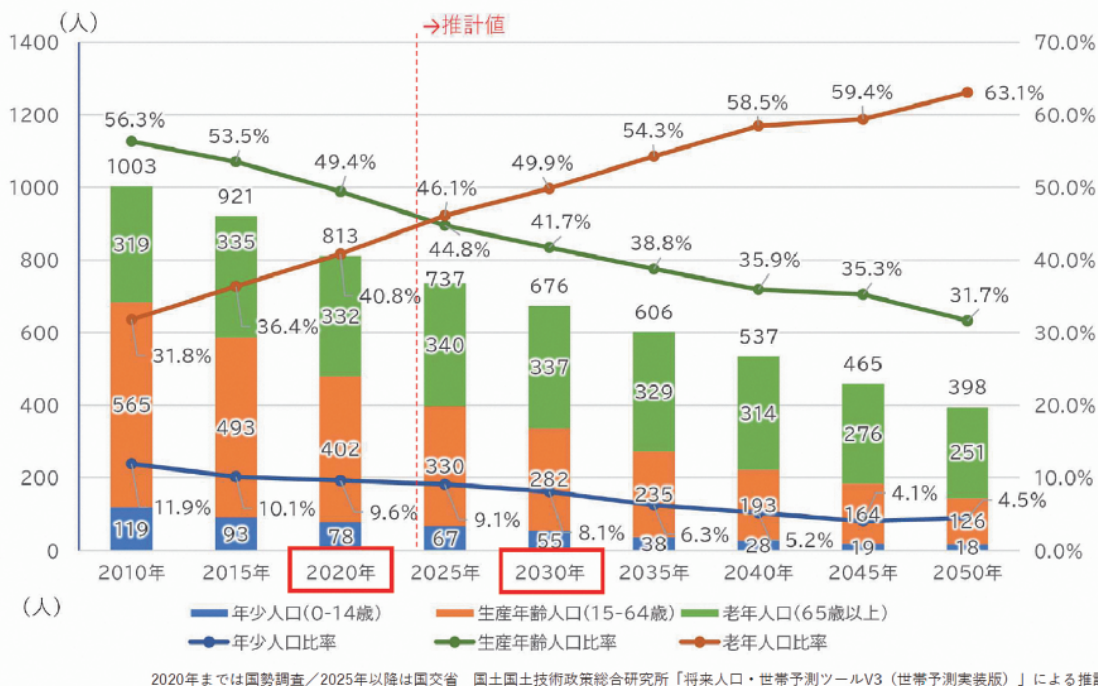
6. 資料編

人口

2020年までの人口推移(国勢調査)と、2025年以降は国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3(世帯予測実装版)」による推計です。

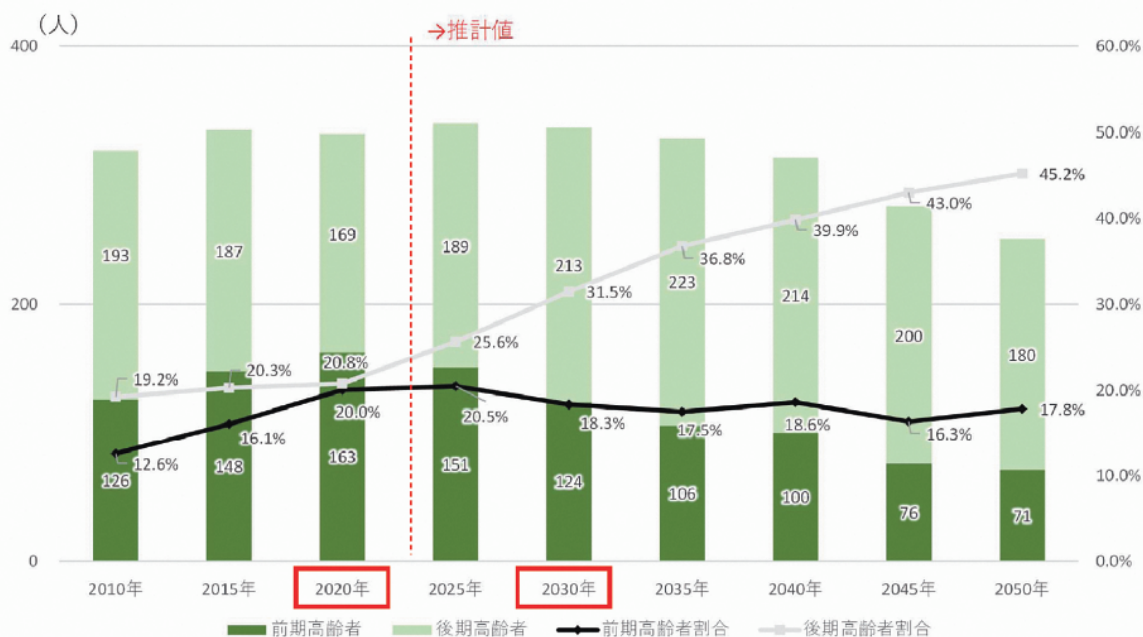
1) 人口推移・推計

2020年から2030年の10年間に総人口は約83%、年少人口は約71%、生産年齢人口は約70%、老年人口は約102%となることが予測されます。



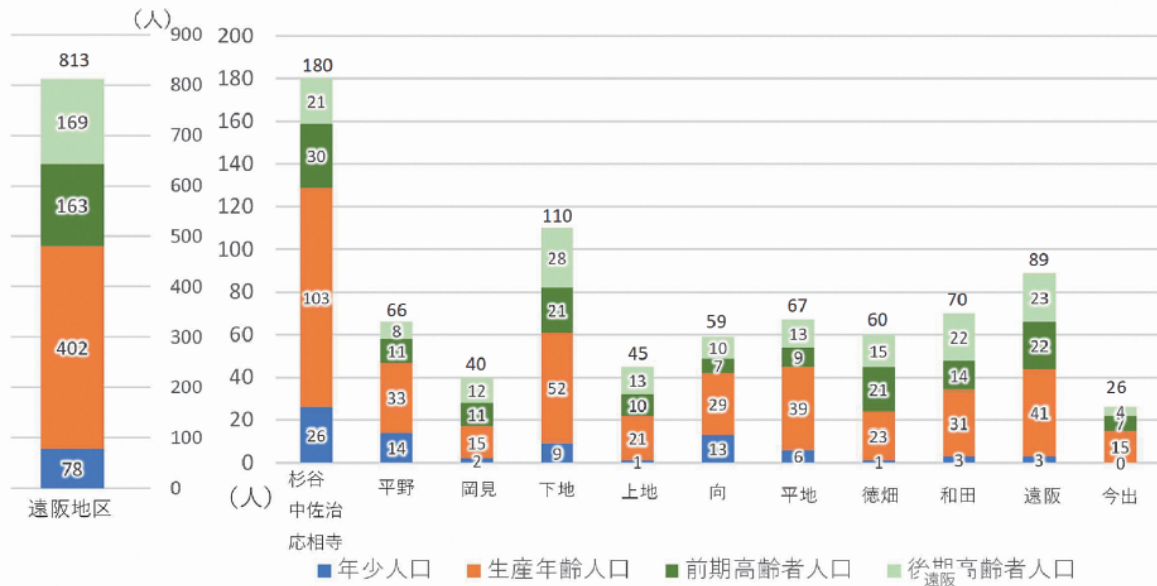
2) 老年人口の内訳

遠阪地域全体と同じく、老年人口もピークを過ぎているが、今後は75歳以上の人口割合が急増していくことが予測されます。



3) 各自治会の人口と年齢階層別比率（2020 年）

遠阪地域全体総人口は 813 人（2020 年国勢調査）となっています。



2020年国勢調査 ※国勢調査の分類のため、「杉谷」「応相寺」は「中佐治」にまとめられている可能性あり

住民アンケート

令和3年度実施「遠阪地区小規模集落元気度調査」結果より記載しています。

1) 暮らし続ける上で特に困っていること

遠阪地域全体をみて、重なる困りごとは「移動（現時点・将来両方）」「地域の役や日役」「農地・山林」その他にも「健康」「同世代がいない・人との関係」「空き家」が目立ちます。

2) 主な移動手段

遠阪地域全体で集計した結果、8割の世帯が「自家用車」ですが、「自治体等が実施する外出支援サービス」の利用も、他調査地域と比べると少し利用されている方が多いです。

3) 農地の将来の管理状況

「下地」「上地」「徳畑」「和田」「遠阪」「今出」の農地の管理は難しい状況になっていることが伺えます。

4) 活性化に向けた取り組み意向

遠阪地域全体をみて「活性化の取り組みが必要」と考えている回答者世帯が多いですが、自治会によって差があります。「杉谷」「今出」は消極的な回答の割合が他よりも多いです。

5) 集落が存続していくための意見

遠阪地域全体をみて、重なる意見は「移動できる環境をつくること」「自治会の見直し・自治会統合・連携」「存続が難しい」「移住者受け入れ」「空き家活用」が目立ちます。

6) 集落の維持・運営上、困っていること（自治会長ヒアリング結果より記載）

「後継者」「役」に関することが多く挙げられています。

7. ミライン会議の検討概要

1) ミライン会議メンバー

委員長 出町 慎

委員 足立晃一郎 足立沙織 足立 真 足立 稔 足立喜信
紀 智子 堀 俊美 前田 進 安田英樹

支援者 丹波市社会福祉協議会： 足立由夏 岡 麗子

丹波市市民活動支援センター： 戸田幸典 立石実希

2) 会議の検討状況

- 令和7年
 - 4月 計画書の方向性を確認（廃校利活用方針をもとに計画書を作成する）
 - 6月 現行の地域づくり計画書の振り返り
 - 7月 計画の柱を検討（目標1～4）
 - 8月 計画の柱を検討（目標5～8）
 - 9月 計画の推進体制を検討
 - 10月 地域づくり計画書 素案完成
 - 11月 地域づくり計画書の周知方法を検討
 - 12月 地域づくり計画書 完成
- 令和8年
 - 1月 遠阪サミットの企画検討
 - 2月 遠阪サミットの開催（具体的な取り組みアイデアを計画に追記）
 - 4月 地域づくり計画書 冊子・概要版の作成
 - 5月 地域づくり計画書概要版の全戸配布

遠阪地域づくり計画書

計画期間：令和8年4月～令和13年3月

発行：遠阪自治協議会

住所：丹波市青垣町遠阪 1590

電話：0795-88-0420

